

沖縄幼小中一貫校設置に関する覚書調印について

本日25日、旺文社は沖縄県と沖縄県うるま市と共同で、基本的にすべての授業を英語で行う幼稚園、小学校、中学校一貫の新しい教育機関を設置する事業を推進することに合意し、仲井眞弘多沖縄県知事・知念恒男うるま市長・赤尾文夫旺文社社長の間で覚書に調印いたしました。

1. 学校新設の背景

今回設立される新しい学校は、「イマージョンコース」と「インターナショナルコース」の2コース制で、日本初の新しいスタイルの学校です。

「イマージョンコース」では主に日本人の児童生徒が学び、「インターナショナルコース」では主に外国籍の児童生徒が学びますが、両コースとも授業は基本的にすべて英語で行われます。

この新しいスタイルの学校の設立には、二つの背景があります。

一つは、沖縄県恩納村に平成24年開校予定の「沖縄科学技術大学院大学(以下 OIST)」の存在です。開校時には世界中から研究者や学生とその子女が多数集まり、研究及び生活をする事になると想定されています。そのため、県としては、外国人を多く含む OIST 関係者子女の受け入れ校を設立する必要性がありました。

もう一つは、今後ますます国際化していく社会において、沖縄県が時代の担い手を育成していくための英語イマージョン校を設立する必要がある、という地元の声が大きかったことです。これについては県内の公立小学校に子どもを通学させている保護者や OIST 関係者に対して行ったアンケートによると、公立学校で6割、OIST で8割の保護者が、「英語で授業を行う教育を強化した学校を求めている」、という結果が出ています。

今の沖縄県の現状は、フリースクールも含めた国際教育機関が数校存在するものの、一部が各種学校として認可されているほかはすべて無認可校であり、日本の一条校(学校教育基本法第一条で定められている学校)としての国際教育機関は整備されておられません。

以上のような背景から、今後は OIST 職員の子やアジアゲートウェイ構想の実現を担う諸機関や企業の子はもちろん、米軍や県民の子や等、英語教育や国際教育に関心のある人びとが、気兼ねなく進学先の選択ができるように、国際教育機関の整備が求められているのです。

この二つが「英語で授業をする」という方法論で結びつき、今回の学校設立に至りました。

2. 合意の内容

○沖縄県

校舎建設費について、募金や補助事業活用など、その確保に責任をもって最大限努力するほか、準備要員1名を派遣する。

○うるま市

開校までの準備期間並びに開校後6年間は、無償で用地及びセンターの既存施設を貸与するとともに、準備事務所の確保のほか、準備要員1名を派遣する。

○旺文社

初期運営資金の準備をするほか、「ぐんま国際アカデミー」で培ったノウハウを最大限に活用し、必要人員を含めてスクールの運営について責任をもって対応する。

3. 学校概要

① 設置場所

沖縄県うるま市字栄野比(具志川野外レクリエーションセンター跡地)敷地面積 27,000 坪

② 学校構成

学校教育法第一条に規定する幼稚園、小学校および中学校の課程を有する学校法人立の一体型の一貫校。イマージョンコースとインターナショナルコースの2コースを設ける。

* 初年度は幼稚園、小学校はイマージョンコースの1・4年生のみ、インターナショナルコースは1～6年生の受け入れ。

③ コース

同一校内に二つのコースが共存することによって、自然に子どもたち同士のコミュニケーションが生まれ、異文化が交流するような「一校二制度」とする。コースごとにカリキュラムはそれぞれ用意する。両コースとも一条校となる。また、進学先の幅を広げるため、両コースとも国際バカロレア資格の認証取得をしていく予定。

*イマージョンコース (対象:主に日本人児童生徒)

イマージョンとは、直訳すると「浸すこと、浸された状態」という意味になります。つまり英語イマージョンとは「英語に浸された状態」を意味します。英語の授業時間内だけで「英語を学ぶ」とは違い、イマージョン環境では、授業以外の生活、例えば朝のホームルームや給食、クラブ活動などでも、すべて英語でコミュニケーションをとることになります。授業は国語と社会以外のすべての教科を英語で学びます。「英語で学ぶ」ということは、授業の内容はもちろんのこと、先生からの指示、教室内でのクラスメートとの会話、グループでの話し合いなど、すべて英語で行われることになります。つまり授業でも普通の学校生活でもどっぷりと英語に浸された環境となるのです。

日本にいながら、このイマージョン教育を通して海外留学の「疑似体験」ができるような環境が整っているのが、このイマージョンコースです。

*インターナショナルコース (対象:主に外国人籍児童生徒)

このコースでは、多国籍な背景を活かした「多文化教育」と「バカロレアカリキュラム」を二つの軸に、順応する力とその能力を支える学力を高めていきます。

OIST 関係者子女の受け入れ校としての役割も考えると、本校には多国籍の児童生徒が在籍すると考えられます。さまざまな言語・文化が混在し、多様化された環境になるということです。本校に在籍することで、生徒たちは日常的に世界の人びとと触れあい、他文化・他民族・他宗教との共存がごく自然に成り立ち、現在の多様化された社会に順応できる力を育てていきます。

現代社会で生き抜くためには「自分自身で考え、結論を出す」という能力は非常に重要です。その能力を最大限に伸ばすために「国際バカロレア(資料参照)」のカリキュラムを導入します。世界共通語である「英語」をベースに、バカロレアの教育内容を通じて、知識に偏重した学習スタイルではなく、自らが積極的に学習に取り組み、その興味・関心を深く掘り下げられるような学習空間・内容を提供します。

④ 開校予定時期

平成 23 年 4 月 予定（プレスクール：平成 22 年度開校予定）

⑤ 設立形態

沖縄県、うるま市および(株)旺文社グループとの三者で協力し、学校法人を新規設立し、私立学校として運営。

4. 旺文社の役割

弊社は平成 17 年度に群馬県太田市に開校した英語特区第一号校「ぐんま国際アカデミー」に、準備段階から関わり、開校から現在まで校内に編集室を設け、教育現場に密着した教材作成という試みに取り組んでまいりました。同時に平成 16 年 12 月より現在まで、副理事長、理事、評議委員、事務局長を務めながら、学校運営のあり方も学んでまいりました。

本校の新設にあたっては、カリキュラム作成や教材の選定、制作、そして学校運営全般において、「ぐんま国際アカデミー」にて培ったノウハウを活かしていただけるものと考えています。

[資料]

* 国内の英語イマージョン実践校例

加藤学園暁秀初等学校、暁秀中学校高等学校（静岡県沼津市）を先駆けとし、ぐんま国際アカデミー（群馬県太田市）、佼成学園女子中学校（東京都世田谷区）、緑ヶ丘女子中学校高等学校（神奈川県横須賀市）、立命館宇治中学校高等学校（京都府宇治市）など、国内に 10 校程度。

* 国際バカロレア資格とは

スイスの財団法人、国際バカロレア機構の定める教育課程を修了すると得られる資格。英語、フランス語、スペイン語を公式教授言語として定めています。

初等教育課程（PYP）、前期中等教育課程（MYP）、後期中等教育課程（DP）があります。年齢的に日本の高等学校の課程に相当する後期中等教育課程（DP）は個々の国独自の教育制度に依存しない大学入学資格です。世界の有名大学を含む 122 カ国以上、1700 以上の学校で認められています。日本の大学においても、筑波大学、上智大学、ICU、東京理科大学などのほか、200 以上の大学が入学資格として認定しています。

* 国内の国際バカロレア資格取得校例

加藤学園暁秀中学校高等学校（一条校としては国内初）や、千里国際学園大阪インターナショナルスクール（大阪府箕面市）をはじめとした各地インターナショナルスクールなど、国内に 14 校程度。

【会社概要】

社 名：株式会社 旺文社
代 表 者：代表取締役社長 赤尾 文夫
設 立：1931 年 10 月 1 日
本 社：〒162-8680 東京都新宿区横寺町 55 TEL:03-3266-6400
事 業 内 容：教育・情報をメインとした総合出版と事業
U R L: <http://www.obunsha.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社旺文社 広報担当：山縣・三澤
TEL:03-3266-6495 FAX:03-3266-6045 E-mail: pr@obunsha.co.jp